

7-7

高齢者虐待介護放棄事例の早期発見と介入システムの確立

総括：在宅介護支援センターが地域の安定化に果たした役割

高齢者虐待

在宅介護支援センター

ふちゅうしりつ えんざいたくかいごしえんせんたー
府中市立あさひ苑在宅介護支援センター

次 長・清野 哲男

東京都府中市朝日町3-17-1

TEL：042-369-0080

E-mail：asahi@tama-dhk.or.jp

FAX：042-365-4683

URL：http://www.tama-dhk.or.jp/asahi/

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

府中市立あさひ苑在宅介護支援センターは平成5年に特別養護老人ホーム併設で、遅れて始まったサービスセンターと3人4脚のような地道な取り組みで地域に根ざしてきた。

〈取り組んだ課題〉

- 地域の高齢者実態把握と経年の数値分析
- 地域関係者との連携による、高齢者虐待・介護放棄事例の早期発見
- 併設特養・サービスセンター・福祉行政・医療機関などとの連携による介入・措置入所などの解決方法確立
- 蓄積された事例の分析

〈具体的な取り組み〉

- 「最も困っている人の下に」という法人理念に基づき、電話・来所相談に対して真摯に取り組み、在宅介護支援センターの役割の周知に努めた
- 行政主導で始まった在宅サービスを利用する高齢者を中心に実態把握に努めた。
- 「見守りネットワーク」を含めた情報活動を通じ、在宅介護支援センターに情報が集中するシステムを確立した。
- 困難事例・多問題家族事例を民生委員さんを中心とした地域関係者と一緒に解決する方法を考えた。
- 高齢者虐待・介護放棄事例について行政担当者と担当地区ケア会議事例検討会を通し介入時期をうかがい、特別養護老人ホーム併設の利点を生かし、必要な場合は緊急ショートステイ利用による分離や措置入所につなげた。
- 経年で蓄積される種々の事例を分析し、新たな問題解決の糸口に利用した。

〈活動の成果と評価〉

- 担当エリア約5万人の中にいる、7千人あまりの高齢者の実態把握が格段に進んだ。
- 「困ったらあさひ苑。」というフレーズが高齢者や家族から出るほどに、問題を解決してくれるあるいはしかるべき方法を伝授してくれる機関として認識された。
- 地域に埋もれがちで、多問題家族・身寄りなし独居高齢者の発見に繋がった。
- 放置すれば虐待に繋がりがちな事例について、初期の段階で遭遇できる道が開かれた。
- 困難な事例を通して共同作業をした関係機関との強固な連携が生まれた。

〈今後の課題〉

- 増え続ける高齢者に対する継続的な実態把握。
- 地域包括支援センターとの業務調整。
- 虐待していた側に対する精神的な支援方法の確立。

〈参考資料など〉

- 府中市立あさひ苑高齢者在宅サービスセンターによる「地域デイサービス」と特別養護老人ホーム府中市立あさひ苑による「介護保険以後入所40事例分析」は関連連動している。